

# I 保健福祉実践開発研究センター概要

## 1. 沿革

本学は開学以来、建学の精神であるキリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき、看護、社会福祉、リハビリテーションの専門職を養成することで、人類の健康と福祉に寄与するという大きな社会貢献を果たしてきました。また保健医療福祉の総合大学としてその特色を生かした社会貢献を積極的に行うことは教育、研究と並んで重要な使命であると考えています。従来から教員は個々に社会的活動を行ってきましたが、2005年度には大学として組織的に社会貢献を推進するために「地域支援研究所」を立ち上げ、教員の社会的活動の促進や公開講座の企画・立案、地域への講師派遣や相談の窓口として活動してきました。

さらに2008年4月の大学院保健科学研究科博士後期課程の開設を機に、2009年10月、地域支援研究所を発展的に解消し、「保健福祉実践開発研究センター」を立ち上げました。本センターは“地域と歩む”をキーワードに、地域の保健医療福祉の更なる質の向上に寄与するための活動に積極的に取り組んでいます。

## 2. 事業内容

### (1) 保健医療福祉分野に係る全ての人たちとの共同事業・研究

臨床・福祉の現場のスタッフや企業と本学教員および本学学生、卒業生、大学院生とが共同で課題解決をはかるための取り組みとして、共同事業や共同研究を行います。

◆「地域貢献研究事業費」を設け、地域貢献を重視した共同研究事業計画を募集し、研究費を配分、その成果を地域へ還元します。

### (2) 多職種連携教育を含めた新しい専門職研修

地域の保健医療福祉専門職の更なる質の向上に寄与するため、地域のニーズに即した教育・研修を実施します。

◆本学の教育の特色である「IPW（保健医療福祉の連携）」「リーダーシップ」を中心テーマとした各種研修等を実施します。

### (3) 保健医療福祉分野の政策形成への貢献

地域の自治体や専門分野に関わる協会・協議会等の団体における委員等を積極的に務め、保健医療福祉の質の向上につながる政策形成に参画します。

### (4) 保健医療福祉分野に係る地域住民に開かれた相談窓口・学習機会の提供

地域住民や各種専門機関が抱えている、保健医療福祉に関わる様々な問題を共に解決する窓口として活動します。また公開講座や出前講座、講師派遣を通じて本学の持っている知的資源を社会へ還元します。